

# ナショナル・バイオリソース・プロジェクト・中核拠点整備プログラム・広義キク属 平成 23 年度運営委員会議事録

日時：平成 23 年 12 月 19 日 13:30-16:30

場所：広島大学 大学院 理学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設 1F 会議室

出席者

運営委員：

渡辺邦秋（運営委員会委員長・神戸大）、間竜太郎（農研機構花き研）、中田政司（富山県中央植物園）、長谷川徹（愛知県農試）、深井誠一（香川大）、星良和（東海大）、米沢義彦（鳴門教育大）

NBRP メンバー：

草場信（代表・広島大）、谷口研至（広島大）、増田優（広島大）

オブザーバー：

篠山治恵（福井県農試）

（順不同、敬称略）

## ・議事概要

### ・報告事項

#### 1. 運営委員紹介

各自、自己紹介

#### 2. 平成 22 年度業務進捗状況

##### 1) 平成 22 年度業務計画書に基いた報告

- ・平成 22 年度は、分子遺伝学的解析のためのリソース収集、野生ギクリソースの収集、マーカーライブラリーの作成、収集した系統の保管・増殖・提供の全てにおいて目標を達成した。分子遺伝的解析のリソース収集ではキク属の強い自家不和合性から  $F_2$  が得られにくいことが問題であったが、野生ギクリソース収集において自殖可能なキクタニギクを発見した。プロジェクトの総合的推進では講演会主催、国際会議出席などを行った。

#### 3. 平成 23 年度業務進捗状況

##### 1) 平成 23 年度業務計画書に基いた報告

- ・平成 23 年度は分子遺伝学的解析のためのリソース収集、野生ギクリソースの収集、マーカーライブラリーの作成において目標を達成できる見込みだが、収集した系統の保管・増殖・提供においては提供が目標数を下回る可能性がある。プロジェクトの総合的推進では NBRP ホームページの刷新を行い、英語版の準備を行った。バックアップ系統の増殖・保存は富山県中央植物園にコアコレクション約 350 系統の維持管理を依頼した。

##### 2) サイトビジット・第 2 期事後評価に関する報告

- ・サイトビジットでは事業の経緯を紹介し、特に自家和合性系統の発見とその意義を説明した。

### 3) : 第二期ナショナルバイオ事後評価について

- ・第二期ナショナルバイオ事後評価では今後の利用が期待されるリソースであるが、論文数の少なさを指摘された。

#### ・議題

##### 1. モデル植物の開発状況について

- ・栽培ギクのリファレンスリソースとしての利用が期待される二倍体野生種キクタニギクをモデル植物に選定した。キクタニギクは開花には短日処理だけでなく、播種後の長日処理と光強度も重要である可能性が示唆された。より短いライフサイクルの条件を確立し、マニュアル化する予定である。キク属は種間交雑が容易であることから、種間多様性の原因遺伝子を分子遺伝学的アプローチにより単離できる可能性がある。キク属は強い自家不和合性の持つが自家和合性突然変異体の単離に成功した。今後、突然変異体単離を含め、分子遺伝学的研究展開を容易にする材料として期待される。実際、自家和合キクタニギク系統の自殖後代からは様々な自然変異が得られた。

##### 2. NBRP 第3期公募について

- ・第2期は数的目標をおおむね達成できた。第3期では、保存の効率化等を通して、保存数の抑制を図りたい。BAC ライブラリ等の遺伝子単離に有用なリソースの収集にも努めたい。この目標に基づいて、自殖可能なキクタニギクの標準系統化を進め、ゲノムのホモ化と BAC ライブラリの作成を行いたいと考えている。栽培ギクのリファレンスリソースとしてだけでなく、他の植物の研究者にも興味を持ってもらえるリソースを目指すという方針で第3期の申請準備をする予定である。